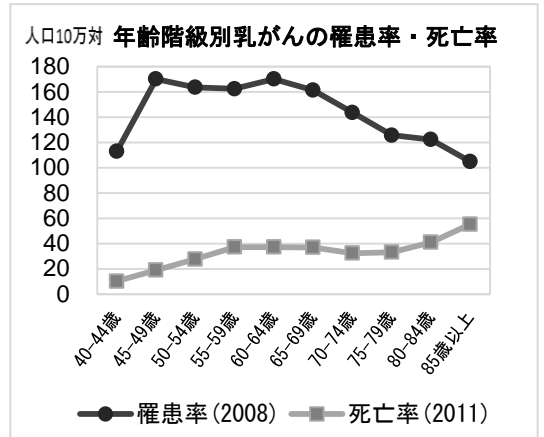


# 乳がん検診を受ける方へ

## ★ 増え続ける乳がん

食生活の欧米化、妊娠、出産の高齢化などにより、乳がんは著しく増加しており、40歳から64歳女性のがん死亡率第1位です！

乳がんは小さいうちに見つけると、治る可能性の高い病気です。早期乳がんでは100%近い生存率が期待でき、乳房温存療法も可能になります。



資料:独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

## ★ 検診の方法

乳がん検診は、視触診とマンモグラフィによる検査を合わせて行います。

### ◎視触診

医師が乳房を見たり触ったりして、乳頭のひきつれやしこりの有無、リンパ節の状況などを調べます。

### ◎乳房X線撮影(マンモグラフィ)

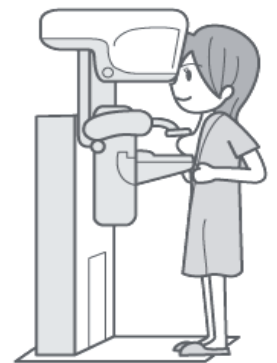
乳房を片方ずつプラスチックの2枚の板ではさみ、撮影します。撮影中は乳房に少し圧迫痛を感じるがありますが、月経の一週間前を避けると痛みが少なくなります。触診では見つからないような小さながんを発見することができます。

マンモグラフィでは、年齢の高い方の乳房は脂肪組織が多いため鮮明に写るのですが、若い年齢層の方は乳腺密度が高く、写りにくいことがあります。そのため、40~49歳の方は片側で2方向の撮影をし、検査を行います。

また、エックス線による放射線被曝は乳房だけに限られ、一般の人が1年間に受ける自然放射線量の50分の1程度で健康への影響はほとんどないと考えられます。

※次の方は、マンモグラフィ検査を受診できません。医療機関でご相談ください。

- 妊娠中及び妊娠の可能性のある方
- 授乳中の方
- ペースメーカーを装着中の方
- 豊胸手術をされた方



「がん予防キャンペーン大阪」  
実行委員会 作成

## ★ 2年に1回は検診を受けましょう！

マンモグラフィを受けた場合、検診間隔は2年に1回でも有効といわれています。ただし、過信せず、定期的に自己触診を行ってください。異常があるときは、すぐに専門医を受診しましょう。